

トルコ

ボアジチ大学 交換留学報告書

静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科 3 年

ボアジチ大学での1学期間の留学は、私の価値観や人柄を大きく変える経験だった。最初
はトルコに行く事が楽しみな反面、初めて訪れる都市ということもあり不安も大きかった。
しかし、訪れてみると日本とは全く違う文化や習慣、国民性が感じられ、毎日が刺激的でと
ても充実していたと帰国した今特に感じる。

まずボアジチ大学について紹介する。ボアジチ大学は「トルコの東大」のような、優秀で
常に高みを目指して努力する学生が多い。テスト前になると図書館の机が朝から夜遅くま
でずっと埋まっている。私は今回3科目の授業と1科目体育の授業を取り、テスト前は特に
毎日図書館にこもって勉強に励んだ。無事単位を取得できたが、彼らは私たち留学生の2倍
以上授業を取っているし、寝ないで勉強している姿も見かけた。「トルコの経済は悪いから、
将来はトルコではなく違う国に行きたい。だから自分は今一生懸命勉強して自分の将来の
武器にしたい。」と心の内を明かしてくれた友達も何人かいた。正直私が日本で行っていた
勉強よりも量が違ったし、必死になって勉強するという姿勢が私自身には足りなかったと
改めて実感し、触発された。

次に生活についてだ。最初の一か月は、6人のトルコ人と、私を含めた3人の日本人は大
学内の寮でルームシェアをした。最初の会話は、トイレの紙を流すかどうかという質問をし
たことだった。トルコでは紙はトイレに流さないのだ。最初話しかけた際はとても緊張した
のを覚えている。しかし彼女たちはとても優しくフレンドリーだった。その後自己紹介を
して正式に私たちの交流はスタートした。授業の登録の仕方やキャンパス内、イスタンブー

ルの街中を案内してくれたり、一緒に美味しいご飯を食べに行ったりした。また普段の生活でも、トルコ語や日本語を教え合い、今日何をしたか何があったかなどたくさん会話をしたことで、ただの友達とは違う特別な友達に変わった。私は勉強も大切だがこれこそ留学の醍醐味だと思った。育ってきたバックグラウンドも文化も違うが、こんなにもお互いに心を通わせ仲良くなれたことは幸せなことだった。しかし1か月後に隣の部屋に移動を強いられた。もちろんショックだったが、時には受け入れ次に進むことも大切だと学んだ。キャンパスは複数あり授業ごとで移動した。南キャンパスの景色や建物はヨーロッパ風でとても素敵だった。猫や犬もたくさんいるので動物好きにはたまらない大学だ。

食事は基本大学内の学食でとった。一食約75円ととても安く、食費を抑えられたと思う。しかし、外食もした。周りにはモールがあってフードコートを利用したし、大学の近くのカフェやご飯屋さんにもよく通った。私はトルコ料理がとても口に合ったので、食事は楽しかった。その中で一番驚いたのは、ヨーグルトはおかず（特にお肉）と共に食べるということだ。トルコのヨーグルトはプレーンかガーリック味で、さらにアイランという飲むヨーグルトがある。しかし日本のような甘いものではなく、塩気のあるものだ。最初は食べられなかったし飲めなかったが、過ごしていくうちにその味にはまってしまった。帰国した今も、トルコのヨーグルトが恋しいし自分で作ってみようと思う。

私はトルコではNitto サークル、ゲームサークル、アルティメットフリスビーサークル、陸上サークルに参加した。Nitto サークルは日本に興味のある学生が参加していることも

あり、多くの出会いがあった。友達や話せる人を作りたいと思っているなら、Nitto サークルに入ること一番におすすめしたい。ゲームサークルはほぼ初対面の人と共にゲームをして、ゲーム後には仲が自然に深まったし初めて挑戦したゲームもあった。アルティメットサークルはトルコ語でプレーをしていたが、チームメイトが通訳をしてくれたし言語が同じでなくてもスポーツを通じて仲良くなったり、共に喜び成長をしたりして楽しかった。陸上はトルコの森を5キロマラソンした。

旅行は、国内はイスタンブール、ブルサ、アンカラ、イズミルを訪れた。どの都市もトルコ人の友達と訪れたが、アンカラとイズミルは友達の実家に泊まらせていただいた。ホームステイの様に手作りのトルコの料理を食べたり、ご両親とトルコ語で簡単な会話をしたりして、滅多にできない体験をすることができた。またドイツのベルリンとイタリアのミラノとローマを訪れた。ヨーロッパはトルコ、日本それぞれの国との違いも感じられた。中でもミラノのピザは絶品だった。本場の伝統ある味を堪能する体験もできて良かった。

トルコのボアジチ大学の留学を一人でも多くの学生ができる事を願っています。ぜひ訪れる際は自分から友達に話しかける、多くの場所に行ってみる、参加してみることで充実すると思います。またトルコ語をもっと流暢に話せたらと毎日感じたので、トルコ語を少しでも多く勉強しておくことをおすすめします。このような貴重な機会を与えていただいたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。この経験を自分の将来に活かすだけでなく、これから県大、静岡、日本、そして世界に対して自分に何ができるのか考えていきます。

ボアジチ大学 交換留学 報告書

静岡県立大学 国際関係学部 3 年



- (1) はじめに
- (2) 派遣先大学について
- (3) 授業について
- (4) その他（ボランティア・旅行等）
- (5) 後輩へのアドバイス等

(1) 20 年染み付いた日本の当たり前は、トルコでは意味をなさなかった。まずタバコの煙から逃げることはほぼ不可能で、5 分歩けば5 匹の猫と会う。道に設置されているゴミ箱を覗けば、鉄屑とスイカが混同していた。初対面 3 分でご飯に誘われたり、サッカーを見に行けば問答無用でバックの中身を捨てられたりした。自分をタフな方だと思っていた私だが、最初は戸惑ってしまい、経験したことのないさまざまな側面からのストレスに苦しむ時期も途中あった。しかし、最後は国柄が出ていて面白いと感じたし、途中からは慣れて楽しむ自分がいた。色々な人と話す中で自分が思うよりも、自分は日本人であると気がついた。そんな長いようで短かった、まさに怒涛の半年間。ほんの一部だが、私の学びと経験を共有していきたい。

(2) さて、ボアジチ大学留学についてだが、多くの留学体験者が入学当初から留学を

目指している中、私が留学に行くことになるとは入学時思いもしていなかった。ボアジチ大学を知るきっかけはボアジチ大学担当の佐藤先生が担当している講義を受けている時だ。いつものように授業を受けていると、ボアジチ大学派遣募集の話を授業内で聞いた。小さな好奇心からだったが、挑戦が好きな私には、いかない理由の方が小さく見えた。ギリギリではあったが、留学を決めた。(その分、留学前に手続きや準備がバタバタしたが。)

トルコについた時は、いつもは緊張しがちな自分だが、実感が湧かずおちついていてた。空港には、すでに出迎えてくれるトルコの学生が一人来てくれていた。大学まで案内してもらい、大学に着くと、まずキャンパスの大きさに驚いた。

キャンパスについてだが、大きなキャンパスが3、4個密集している。キャンパス移動だけで20分程度歩くほどの大きさである。さすがトルコナンバー1の大学だと感じた。アジアとヨーロッパを繋ぐボスフォラス海峡を毎日眺め、登校することができた。キャンパスで生活する中でまず気がついたことは、活気さである。黙っている人を見つけることが難しいほどに会話が飛び交っていた。キャンパス外も例外なく、人、音で溢れていた。結局最後まで、道路で突然意味もなく鳴り響くクラクションの音には慣れなかった。

(3) 授業については、体育も含めると5つ履修した。International Trade を専攻し

た。どれも難易度は高いと感じた。テスト前だけではなく、出席時に理解すること、復習することが求められる。私は英語が堪能ではないので、授業勉強以外に、英語そのものの勉強もしていた。テスト前は言わずもがな机と睨み合っていた。正確に測っていないが、大学受験をしていた時以上か同じくらいの勉強量だったろう。1、2年次の勉強量、難易度とのギャップに苦しんだが、案外勉強を楽しんでいた。要因としては「環境」にある。図書館は常に席が埋まっていて、深夜まで多くの学生が勉強している。私の友人は図書館に住んでいるのではないかと疑うくらい勉強していた。（ちなみに図書館は24時間空いているので本当に住んでいたのかもしれない。）その姿をみて、英語力もなければ、授業中にすべて理解できるわけでもない知識量の私が勉強しないわけにはいかなかった。大学内は全員英語を話すことができるので、勉強してインプットしたことをすぐにアウトプットできる環境であったことも大きなメリットだろう。英語力向上を目指していた自分は、できるだけ多くの人と話すことを意識した。ボアジチの学生の英語力はネイティブスピーカーレベルの人がいれば、私と同じくらいのレベルの人まで幅広い。使う単語や文系、語彙などが偏らないように、幅広い人と話すことを意識していた。また、シャワーを浴びている時は呪文のように一人ごと英語を喋り、練習していた。結果、まだまだではあるが、特にスピーキングは向上し英語学習のスタートラインに立てたのではないだろうか。

友人作りの心配はいらないと考える。トルコの人々は底抜けに優しく、いつも助けて

くれる。アジア人であること自体がレアな存在なので、話しかけられることも少ない。個人的な友人作りは、寮がメインだった。すでにグループが形成されているところに割り込み話すことは難しかったので、ランドリー部屋で洗濯をしに来る学生を捕まえて話すことで友人を増やしていった。友好的な彼らは一度話せば友達になれる。

「ニット会」という組織にも本当に助けられた。日本の文化に興味がある学生が集う組織であり、多くのかげがえのない優しい人々に出逢った。他大学からトルコに来ている日本人学生にもであうことができる。もし、これを読んでいる人がボアジチ大学に行くことがあれば、強く、強く参加を進める。

(4) 授業以外では、主に2つの活動をした。

1つ目はサッカー部での所属である。トライアウトも実施するほど人気の部活だったが、なんとか突破し、所属することができた。中高ほぼ全ての時間をサッカーに捧げた甲斐があった。スポーツの力は凄まじく、サッカーを通して多くの友達を作ることができた。帰国前にはキャンパスを歩けば友達を見つけられるほどまで友好関係は広がり、改めてスポーツの人をつなぐ力に感銘を受けた。

2つ目は言語ボランティア組織での活動である。Langaid という組織で日本語を教え

ることに注力した。

私は留学時、なんでもとりあえずやってみることをテーマにしていた。新しいことへの挑戦、昨年起きたトルコ南部地震からの復興金創出のために言語支援ボランティア組織に加入した。英語で日本語を教えるという状況に苦戦した。人前で喋ることに怖さを感じ、途中で講義を中止しようと思えることもあった。だが、初心を思い出すこと、ある友人の言葉が支えとなることで10回を超える授業をやり遂げることができた。結果、人間関係を広めるだけでなく、組織合計で94750リラを寄付し、私の授業では7250リラを創出することができた。この経験から、困難に立ち向かう強さを身につけることもできた。

トルコ人だけでなく色々な国の人と交流した。イタリア、フランス、スペイン、などヨーロッパを始め韓国、シンガポール、エジプト、、、あげるとキリがない。留学生を多く受け入れているボアジチでは本当に多種多様で色々な人種、国籍、宗教、年齢の人々と関わることができる。今思い返すと、想像の中のような生活だったが、確かに私の中にある経験であり、自分の楔となる半年間だ。

(5) 最後に、この留学の機会を下さった静岡県立大学、ボアジチ大学の皆様に感謝を伝えたい。たくさんの人の協力で留学をすることができました。やはり、現地で見

て、聞いて、考え感じたことは新鮮かつ鮮烈でいかなければわからないことが多い。

この場をお借りしてお礼させていただきます。ありがとうございました。

この経験を一過性のものにせず、これからの大学生活、歩んでいく人生に生かしていく。とても楽しい半年間でした。もし、ボアジチ大学に限らず、留学に迷っている人がいれば、アドバイスもできると思います。





イスタンブール ボアジチ大学

国際関係学部 国際関係学科

(1)総合的な感想

9 か月間のトルコボアジチ大学への留学は、勉学、友だち、旅行などの様々な面でたくさんの素敵な経験ができ、一生の宝物となりました。

私を感じる留学前後の大きな違いは、言語に対する考え方が変わったことです。留学前は、現在翻訳機もたくさんあることや、通訳者もいることなどから言語を学ぶことの重要性を少し軽視していました。しかし、実際に外国人と会話し、地域言語が日本語でない場所に行くことによりその考えが変わりました。留学中は、トルコ人はもちろんドイツ人、フランス人等、たくさん友だちができ、「友だちの母語で会話してみたい!!」と強く感じました。

また、友だちの外国人が日本語で話しかけてくれたときは、強く感動しました。私の母語である日本語で話されると心に響くものがありました。留学のメリットは言語をその場で学べるだけでなく、言語に対する考え方やモチベーションアップにも繋がることだと思います。現在も留学中に出会った友だちと

英語やトルコ語などを使って連絡をとっており、トルコ語は友だちに教わっています。これらも留学をしなかったらできなかったことです。

(2)派遣先大学について

ボアジチ大学は自由な大学だと言われており、様々なファッション、ジェンダーの人達がいきました。

「多様性」という言葉がぴったりだと思います。ボアジチ大学はトルコでトップクラスの大学で入学することも卒業することも大変であり、現地の友だちは本当にいつも必死に勉強していて、刺激を受けました。そして、テスト期間という概念がほぼなく常にテストが行われていました。図書館も24時間開いています。

ボアジチ大学の他の特徴の一つはサークルがたくさんあり、活動が活発なことです。私は、日本とトルコの交流する場である日土サークル、Kpop と Hiphop のダンスサークル、ゲームサークル、編み物サークルに参加しました。友だちもたくさんでき、とても楽しかったです。

また、ボアジチ大学には特にヨーロッパからのエラスムスの生徒が多く来ており、交流することができました。ベルリンに行った際は実家に泊まらせてもらい、ご飯をごちそうになったり、観光の案内をしてくれたりしました。

(3)生活面について

県大のボアジチ留学生は寮に入れます。寮の友だちと交流できたことも良い思い出の一つで、折り紙や、自国の文化についてお互いに語りあうなどしました。また、大学の近くの Cami sokak という場所にはカフェやレストランが多くあり、友だちと何回も通った大好きな場所の一つです。大学周辺は特に治安が良いです。

トルコでは、チャイというお茶がよく飲まれており、トルコ人はチャイを飲みながらたくさんお話しをします。

大学があるイスタンブールには、私が人生で見たなかでも一二番を争う美しさでヨーロッパサイドとアジアサイドを分けているボスポラス海峡があります。一回約 15 円で船に乗れ、海峡を渡ることが出来ます。さらに、イスタンブールには、たくさんの歴史的建築物があり、歴史の勉強にもなりました。

(4)旅行について

春休み期間中は、トルコ国内外とたくさん旅行をすることができました。トルコでは、ブルサ、アンカラ、エスキシェヒシ、イズミル、フェティエ、デニズレ、ネブシェヒシに行きました。アンカラ、イズミルにはトルコ人の友だちの実家があり、泊まらせてもらいトルコの家族や文化を肌で感じるすることができました。滞

在中は色々な場所を案内してもらったり、トルコ料理をごちそうしてくれたり、優しさとおもてなしにとっても感動しました。次回は日本で会う約束をしました。

冬休みはイタリアへ旅行し、二学期終了後にドイツ、チェコ、オーストリア、スロバキアに行きました。ヨーロッパ旅行に行きやすいところも、トルコ留学の大きな利点の一つだと思います。実際、イスタンブールからベルリンに行った時にかかった航空費は、実家と県大の往復の電車代よりも安かったです。

(5)後輩へのアドバイス

私はボアジチ大学に留学して本当によかったと強く感じているため、もし迷っている人がいたらボアジチ大学に留学することをおすすめします。トルコに留学できる機会は貴重で、トルコ人はフレンドリーで優しい人が多いと思うことも理由の一つです。個人的な意見ですが、特に友だちをたくさん作りたい、たくさんお話ししたい、英語だけではなく他の言語を学んでみたい、トルコ国内やヨーロッパをたくさん旅行したい、猫好きという人にはトルコボアジチ大学への留学はおすすめです。

経験者としてアドバイスをすることができるので、質問、相談したいことがあったら遠慮なくご連絡ください。

最後に、このような素晴らしい経験ができたのは静岡県立大学ボアジチ大学留学担当の佐藤真千子先生を始め、国際交流室の皆さまなど様々な方のおかげです。ありがとうございました。

本当に静岡県立大学に入学してよかったです。



ボアジチ大学の南キャンパス



ボスポラス海峡でアジアサイドとヨーロッパサイドを渡る船からの景色



カッパドキア

トルコ・ボアジチ大学

交換留学報告書

留学期間 2023 年 9 月～2024 年 6 月

国際関係学部国際関係学科 3 年

1. ボアジチ大学について

ボアジチ大学はトルコ有数の難関大学で、学生の学習意欲は非常に高い。中間試験と期末試験がある科目がほとんどで、試験期間には 24 時間利用可能な図書館だけでなく、学内にあるカフェテリアをはじめ、机がある場所はどこも試験勉強をする学生でいっぱいになる。カフェテリアは夜遅くまで営業しており、私自身、試験勉強をする際はほとんどの時間をカフェテリアで過ごした。

授業と試験で忙しく過ごしているボアジチ生だが、クラブも多くあり、気分転換や交友関係を広げるために参加している学生が多くいた。私は、日本とトルコの文化と友好の架け橋となることを目指して設立された「日土」(ニット)というクラブに参加した。このクラブは文化交流を目的とするイベントを年間を通して多数開催しており、特にお花見やカラオケなどを楽しんだ。5 月に設けられた日本文化週間では剣道や琴の演奏会などが行われていて、日土のメンバーでない学生も日本文化に触れられる機会となっていた。

2. 生活について

留学中はキャンパス内の寮に滞在した。友人だけでなく、マネージャーにも本当に親切にいただいた。食事は、ほとんど毎食学食を利用した。朝食は約 75 円、昼食と夕食は約 100 円だった。また、キャンパスの近くにはスーパ

ーや飲食店も多いので友人と利用することもあった。よく利用する店ではお店の方が顔を覚えてくれて、覚えた少しのトルコ語を褒めてくれた。

イスタンブール市内の移動手段として、バスや地下鉄のほかにフェリーも日常的に利用した。公共交通機関にはイスタンブールカードというカードを使うが、学生用のカードを作ると割引料金で利用できた。

治安については、キャンパスの周りで身の危険を感じたことはない。ただし、人が多く集まる観光地や夜遅くに地下鉄を利用する際にはスリや酔っ払い同士の喧嘩に注意が必要だ。

留学期間中のお金に関しては、現地で銀行口座は開設せず日本から持っていたデビットカードで現金を引き出していた。周りの留学生もキャッシング機能付きクレジットカードを利用している人が多かったように思う。

3. ボランティア

私は通年、ボアジチ生に週に一度日本語を教えるボランティアをした。これは学生団体がトルコ・シリア大地震の被災地支援のために立ち上げたプロジェクトの一環で、授業料は全額被災地のために寄付された。日本語を教えた経験も授業をする立場になったこともなかったので自信がなかったが、一緒に授業を担当した友人と日本語に興味を持ち、楽しそうに学んでくれたボアジチ生の

おかげでやり切ることができた。この団体は日本語の授業のほかに、中国語、韓国語、英語、スペイン語、ロシア語、クルド語、アラビア語など多くの授業を提供しており、私はトルコ手話の授業に受講生としても参加した。

4. 留学を考えている皆さんへ

私は留学前、留学に求められる英語力の高さに何度も応募を諦めそうになったが、どうしてもトルコに行きたい理由だけは持っていた。皆さんにも、自分の英語力では留学に行けないと諦めずに英語の勉強を続けて、応募してみしてほしいと伝えたい。

トルコ人はおしゃべり好きな心温かい人々で、イスタンブールでは長い歴史と大都市としての賑やかさを感じる。そして、ボアジチと周りの人々は温かく私たちを迎え入れ、困ったときには手を差し伸べて、トルコにもう一つの家ができたようだと感じさせてくれる。私にとってトルコで過ごした日々と出会った人々はかけがえのない宝物であり、諦めずにチャレンジして本当によかったと思う。私と同じように、一人でも多くの県大生がボアジチ留学を実現し、貴重な経験をできることを願っている。

5. 最後に

本当に多くの皆様に支えていただき、留学することができました。ボアジチ大学への交換留学の機会をくださった、静岡県立大学、ボアジチ大学、両大学の皆様に心より感謝申し上げます。そして、いつも私たち交換留学生に寄り添い、親身にサポートしてくださった担当の佐藤先生、本当にありがとうございました。